

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	7月	9日	(記入者) 鈴木 康信	
取材参加者	大谷	河添	神野	鈴木	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：専念寺の阿弥陀如来坐像				

所在地	吉野郡下市町新住（あたらすみ）966				
所有者（取材 対応者）名	専念寺(専念寺 境 将希住職、新住自治会総代) (個人情報守秘)		連絡先		
			PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：新住自治会総代				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	阿弥陀如来坐像 1975（昭和50）年11月1日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	この坐像は上品下生の印を結んだ阿弥陀如来で、藤原和様の流れを追う藤原末期頃の造像とされている。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消火器は設置されている。 消防署の定期検査を受けている。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	被害は特になし。	特になし。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	およそ30年住職のおられない間、地区の檀信徒でお寺を守ってこられた。今の39代 境住職が就任されて約1年。月参りで定期的に京都から来られている。寺報「隋縁」の発行、SNSの活用など積極的に活動されている。現在の檀家は38戸。庫裏は建て替えのために取り壊しをしている。本堂は江戸末期の建造物であるが、屋根瓦、内部天井は最近修理されている。しかし、柱と建具の隙間が大きいなど建物躯体の老朽化が激しい。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

先代住職が亡くなられてから30数年の間は、住職不在の寺であったのを、檀信徒の方々が守り通してこられたと聞く。10日毎に本堂の縁側に仏飯・花をお供えし、1か月に1度の掃除を行うなど、地域のそして自分たちの寺を守っていこうという姿勢が今に繋がっていると感ずる。庫裏が完成したのは光照会館という名前になり、檀信徒の方々の新たな心の支えとなっていくことだろう。

市町村指定取材票《裏》

取材日	2024年	7月	9日	(記入者)	鈴木 康信
取材参加者	大谷	河添	神野	鈴木	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：専念寺の阿弥陀如来坐像				

〈写真撮影許可済み〉

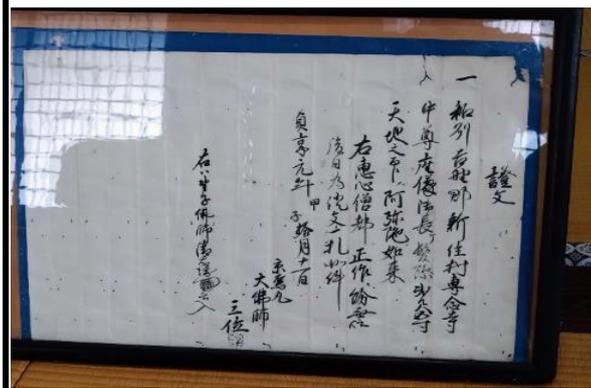
文化財指定名

文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
-----------	----------------



仏像の證文

専念寺本堂



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

現住職が、建て替えのために庫裏の整理をしていたところ、本尊の阿弥陀如来が恵心僧都源信の作とする證文が出てきた。證文の日付は貞享元年10月とあり、京都の仏師が鑑定したものと思われる。また、この仏像が光り輝いているように見えるのは、江戸時代に信仰心の篤かった檀家により金箔が何度も貼り重ねられたためと言われている。

町史の文化財の説明はタイトルを含めて4行しかないが、古いお寺のため伝聞や伝承は多い。「なら井戸」は山門前の道を隔てた所にある湧き水で、猿沢池と繋がっていると伝わる。この仏像が金剛山の麓の谷に埋もれていたときに、掘り出した人が祀っていたが「われはあたらすみの専念寺に居た、行きたい」という言葉を聞いた、など他にもたくさんの伝承が残っている。